

# 藤樹記念館通信 ⑨

## 藤樹ゆかりの地

館長 富永 雄教

昨年の十月に、中江家ゆかりの地である岐阜市の黒野城跡と関係史跡および中江藤樹の影響を受けた儒学者佐藤一斎にかかわる恵那市内の資料館や史跡等を見学して、記念館職員の研究を深めました。

黒野城跡およびその城下町周辺の史跡の研修においては、地元「黒野城と加藤貞泰公研究会」の方々に案内や説明をいただきました。見学後は史跡内の研修室で中江藤樹の祖父の住居跡や黒野城と加藤家の歴史、研究会の取組内容について、多くの資料をもとに丁寧に説明していただき、中江家ゆかりの地の歴史や現状について詳しく学ぶことができました。

また、今回の研修に合わせて、当地の研究会により、「近江の聖人中江藤樹を育てた祖父中江徳左衛門吉長の屋敷跡」の説明用の案内板を当時の場所に設置され、研究会の皆さんの熱心な取組と中江家や藤樹先生に対する温か



「黒野城と加藤貞泰公研究会作成の看板」(令和元年10月7日作成)

### 近江の聖人中江藤樹を育てた祖父 中江徳左衛門吉長の屋敷跡

江戸時代初期の儒学者で日本蘭明学の祖といわれる中江藤樹(近江国高島郡小川村生まれ・現滋賀県高島市)の祖父、中江徳左衛門吉長の屋敷がこの付近にありました。吉長は加藤光泰が高島の大津城主・元石のとき光泰に仕官し、のちに黒野城主加藤貞泰に仕えていました。慶長十五年(1610)貞泰が米子(鳥取県)へ国替えになり吉長もお供しました。元和二年(1616)吉長(五〇日)は、小川村から九歳の藤樹を養子にして米子に行き、翌年貞泰の国替えで大洲へ移りました。貞泰は学問への理解も高く、藤樹は吉長の元で学び、後世に近江の聖人と言われるほどの偉大な人物になりました。吉長が黒野城下に住んでいた屋敷は、慶長十四年(1609)の検地帳によると、八間(約15m)×六間(約11m)、面積が一畝一八歩(四八坪・158㎡)でありました。黒野城下家中屋敷絵図(明治28年写し)によるとこの附近のどこかに屋敷があったようです。(屋敷は現存していません)



黒野での研修後、岐阜県の南東部に位置する恵那市へと向かいました。恵那市の岩村歴史資料館や岩村城跡、城下町等の研修においては、地元の「佐藤一斎顕彰会」の方々に案内や説明をいただき、佐藤一斎の生涯や功績、顕彰活動にかかわる恵那市の現状や今後の取組など多くのことを学ぶことができました。これらの研修の成果については、今年三月から開催する中江藤樹記念館の小企画展、および今後の運営等にいかしていきます。



佐藤一斎像 (岩村歴史資料館)

い心遣いに変え感動しました。中江藤樹の祖父「中江徳左衛門」は、大溝城主の加藤光泰に仕え、城主に従って、大垣城、佐和山城、甲斐国へと移り、光泰の死後は光泰の子加藤貞泰と共に黒野城へ移り、その後十六年間という長い期間、上の看板の図面に示された武家屋敷に住んでいたと言われています。上の案内板には、当時の黒野城下家中屋敷図と検地帳の写しが添えられ、かつて黒野城下に中江家が存在していたということを強く感じることができました。

## 賛助会員一覧

- 新規賛助会員のご紹介
- ◎ 大津公証人会 白髭博文 (京都市左京区修学院中林町)
- ◎ 株式会社 澤村 (高島市勝野)

- ご協力ありがとうございます。
- ◎ ウェストレイクホテル可以登楼
- ◎ 株式会社 大山建設
- ◎ 川島酒造 株式会社
- ◎ 株式会社 Grow's
- ◎ 株式会社 桑原組
- ◎ 有限会社 宏和商事
- ◎ 税理士法人 小畑会計事務所
- ◎ 有限会社 白浜荘
- ◎ 社会福祉法人 新旭みのり会
- ◎ ソエダ 株式会社
- ◎ 田中マネジメント事務所
- ◎ 株式会社 TADCOポーレーション
- ◎ 鉄屋商事 株式会社
- ◎ 寺子屋まなごし童心塾
- ◎ 株式会社 戸井薬局
- ◎ とも栄 藤樹街道本店
- ◎ 中村印刷 株式会社
- ◎ 株式会社 中村測量設計
- ◎ ニッケイ工業 株式会社
- ◎ 有限会社 馬場塗装
- ◎ 保木機料 株式会社
- ◎ 有限会社 綿庄食品店

(五十音順)

### お詫びと訂正

前号での新規賛助会員紹介で、「株式会社 Crows」は、「株式会社 Grow's」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。